

## 高大接続における早期履修制度の類型 —Advanced Placement と類似制度—

京都大学大学院生 西川 潤

### 1. 問題の所在

平成 25 年の教育再生実行会議第 4 次提言で提唱されて以降、常に我が国の高大接続改革の議論の中心にあった大学入試制度改革は、平成 32 年度より実施予定の大学入学共通テストの構想が固められることで、一応の着地点を見るに至った。その一方で、にわかに注目を集めるようになってきているのが、主に理数系分野において高校生に大学の単位を「先取り」で取得させるシステムの構想である。平成 30 年 8 月からは、教育再生実行会議が高等学校改革に関する議論の中でこのようなシステムの活用促進に向けた検討を開始している<sup>1</sup>。時事通信の報道によると、このような構想は米国の **Advanced Placement** から着想を得てはいるものの、日本独自のプログラムとして展開されようとしていることがわかるが<sup>2</sup>、実際の **Advanced Placement** は米国の非営利団体カレッジボード (College Board) の登録商標であることに注意を払う必要がある<sup>3</sup>。単に大学の単位を「先取り」で取得するという意味では、米国では **Advanced Placement** 以外にも、それを可能とする手段は存在しており、日本でも既存の制度内で高校生が大学の単位を取得することは可能である。よって、高校生が大学の単位を取得することと、その一形態である **Advanced Placement** は区別して考えられるべきであるが、似通った部分も多い上に、日本の事例も含めて厳密に定義付けを行っている研究は存在しないため、米国で利用者が多く知名度が高い **Advanced Placement** の名称が独り歩きし、正確な理解が妨げられていると考えられる。先行研究においても、日本における類似制度と **Advanced Placement** が厳密に区分されないまま、包括的に論じられているものも見られる<sup>4</sup>。

一方で、平成 30 年に「日本アドバンスト・プレイスメント推進協議会」が設立され、日本の高等学校においてカレッジボードが行う **Advanced Placement** を導入・普及させようという動きが広まりつつある<sup>5</sup>。将来的にカレッジボードの **Advanced Placement** と、日本独自のプログラムが併存することが十分に予想される中、名称もさることながら、その目的や実施形態に関する差異についても明確にされなければ、余計な混乱を招きかねない。

そこで、本稿では高校生が大学の単位を取得できる制度全般を「早期履修制度」と呼び、その一形態である **Advanced Placement** との区別を図る。そして、日米における **Advanced Placement** の類似制度を対象として、各制度の目的と形態に応じた類型化を試みる。そこから、日本で導入への準備が始まっている **Advanced Placement** の相対的特徴を明確にし、早期履修制度に関する議論の円滑化に資することを目的とする。

なお、日本の先行研究において **Advanced Placement** は AP もしくは AP プログラムと略されることが一般的であるが、本稿では名称に注目するため、極力略すことなく正式名称を用いることとする。

## 2. 早期履修制度

初めに、議論の前提として、前述の時事通信の記事を詳しく見ておこう（下線部は筆者による）。

文部科学省は、全国約50高校を対象に生徒が大学の科目を「先取り」して履修・単位取得できる制度を創設する方針だ。人工知能（AI）の技術発展を見据えた人材育成の一環。

（中略）

文科省は、高校生が大学の単位を取るため、高校の教室で直接授業を受けたりインターネット配信授業を受けたりすることを想定。研究開発などで国際的に活躍できる人材を育てる観点から、提携する海外の高校への留学を必修化し、海外から受け入れた留学生と日本の高校生と一緒に英語で授業を受けるプログラムも設ける。

取得した単位をどの大学で使えるようにするかなど細かな制度設計は、今後の検討課題としている。

高校生が在学中に大学の正規科目を受講し、進学後に単位として取得する取り組みは「アドバンスト・プレースメント」と呼ばれ、米国などでは一般的となっている。文科省は理系分野でのアドバンスト・プレースメントを日本でも推進し、高校生の学び方の選択肢を増やしたい考えだ。

出典：時事通信(2018年7月14日付)「50高校で大学単位『先取り』=AI人材育成、新制度構想—文科省」  
<https://www.jiji.com/jc/article?k=2018071400405&g=soc> (2018年8月30日閲覧)

ここでは、文部科学省が人工知能（AI）の発展を見据え、高校生に大学の理系科目の履修・単位取得を可能とする制度を創設する方向であることが報じられている。そして、記事の最終段落では「高校生が在学中に大学の正規科目を受講し、進学後に単位として取得する取り組みは『アドバンスト・プレースメント』と呼ばれ、米国などでは一般的となっている」と述べられている。

すなわち、ここで挙げられている「アドバンスト・プレースメント」とは、「高校生が在学中に大学の正規科目を受講し、進学後に単位として取得する取り組み」を指している。ところが、米国のカレッジボードが実施する **Advanced Placement** は、高校で行われる大学レベルの授業を履修するもので、大学の正規科目を受講するものではない。さらに、進学後の単位認定についても、外部試験である **AP** 試験を受験する必要がある、高校での授業を修了するだけでは大学の単位には直結しないのである。

このような認識のズレは、「**Advanced Placement** とは高校生が大学の単位を取得できる取り組みの総称である」という誤解に基づくものと推察される。よって、そのような取り組みの総称を別に用意し、個別の取り組みとの差別化が図られなければならない。

これまでの研究では、「高大接続プログラム」という名称が用いられているケースが多い。例えば、小川は、「高大接続プログラム」を「中等教育と高等教育の接続に関して、大学入試制度の改革にとどまらず、高校生が大学へ円滑に進学することを目的とするプログラム」としながらも、「それは広義に解釈すれば、オープンキャンパスや研究室訪問といった1回限りのものも含まれると考えられる」と述べ、「多少の例外を除いて、比較的系統性のあるプログラム（例えば1回限りの講演ではない）に焦点を絞ることとした」と説明している<sup>6</sup>。

しかし、「高大接続」という言葉は本来示す範囲が極めて広い。平成26年の中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」では、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜を一定的に改革していくことが提言されている。換言すれば、高大接続とはそれら3つの要素を包括する概念ということになり、**Advanced Placement** に代表される高校生が大学の単位を取得できるシステムをもって「高大接続プロ

グラム」と称することはあまり適切ではないと考えられる。

「高大接続」と並んで頻繁に用いられる用語に「高大連携」がある。しかし、こちらは文字通り高校と大学が連携して行う取り組みの総称であり、Advanced Placement のように第三者の非営利団体が運営するものには当てはまらない。以上のことから「高大接続」、「高大連携」のいずれでもない呼称を用いることが望ましい。

そこで、米国での呼称を確認すると、「accelerated learning」<sup>7</sup>、「college prep course」<sup>8</sup>、「college-level work」<sup>9</sup>といった用語が用いられている。また、関内は米国の才能教育を整理・検討する中で、「早修制度」という呼称を用いている<sup>10</sup>。しかし、早修制度という言葉は飛び級なども含む比較幅広い概念であり<sup>11</sup>、本稿が対象とする「高校生が大学の単位を取得できる制度」には収まらない。Advanced Placement 等のシステムは、あくまで高校在学中に大学の単位を取得する機会を得るものである。そこで、本稿では既存の名称と類似性を持ちながらも今までは用いられてこなかった「早期履修制度」という名称を用いることとする。

次節からは、米国と日本における早期履修制度を整理し、日本で導入が検討されている Advanced Placement の特徴の相対化を行う。

### 3. 米国の早期履修制度 —Advanced Placement と Dual Enrollment—

米国における早期履修制度は、大きく分けて Advanced Placement と Dual Enrollment の二種類である。ただし、Dual Enrollment<sup>12</sup>とは大学と高校（または学区）の協定に基づいて行われるプログラムの総称であり、Advanced Placement のように単一のプログラムではない。そのため、個別のプログラムによって形態は異なり、単独の大学が実施するものから、州内の全ての公立大学が参加するものまで、あり方は実に多様である<sup>13</sup>。なお、先行研究において、表1の通り両者の実施形態の違いが整理され、比較検討がなされているため、本稿ではそれぞれの詳細な解説までは行わない。

表1 Advanced Placement と Dual Enrollment の比較

	Advanced Placement	Dual Enrollment
参加者数	2,741,426 人以上 <sup>14</sup> (2017 年)	推定 1,227,000 人 (2011 年)
運営母体	カレッジボード	個々の大学と高校の協定
授業場所	高校（一部オンラインでも実施）	大学のキャンパスまたは高校またはオンライン
授業担当者	高校教員	大学教員または高校教員
単位認定方法	AP 試験の成績をもとに判定	授業の修了により単位を授与
単位互換	全米のほぼ全ての大学で認定	単位を取得した大学以外は、授業の水準等を考慮して判定
費用	AP 試験 1 科目あたり 92 ドル (2016 年)	大学によって異なる（基本は 1 科目あたりの授業料。多くの大学で割引あり）

出典：高見茂・西川潤「米国の公立大学における Dual Enrollment による高大接続の展開とその意義—ニューヨーク市立大学の College Now プログラムを事例として—」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第 63 号、2017 年、421-444 頁に記載の表を筆者が一部修正。

重要なのは、Advanced Placement が高校の授業として行われるのに対し、Dual Enrollment は大学の授業を高校生が履修するという点である。すなわち、前章で紹介した報道において構想されているシステムは、Advanced Placement よりも Dual Enrollment に近いことがわかる。

Advanced Placement が明確に Dual Enrollment よりも優位性を持つ要素は、単位を認定する大学の多さである。日本で Advanced Placement の導入が検討されているのも、Advanced Placement で単位を取得しておけば、米国の大学に進学する場合、どの大学に進学する場合でもそれが認められることは大きなメリットになるからであろう。また、Dual Enrollment の場合は実際に大学の授業に履修登録をすることになるが、日本の高校生がそれを行うことは現実的には難しい。その点、Advanced Placement であれば高校で授業が行われるため、カレッジボードの認証さえ下りれば、日本の高等学校での実施していくための障壁もさほど大きなものとはならない。

この他に、国際バカロレアのディプロマ・プログラムも、大学入学後に一定数の単位が認定されることが一般的であるため、早期履修制度の一種とみなすことができなくもない。しかし、本稿が対象とする早期履修制度は、あくまで科目単位での履修を前提とするものであるため、国際バカロレアは参考程度に留めるのが適切であろう。

#### 4. 日本の早期履修制度

日本においても、現行制度内で高校生が大学の単位を取得することは可能である。それは、科目等履修生として大学の授業の履修登録を行い、大学生と同等に授業を終了することで単位を得る方法であり、平成 27 年度に科目等履修生として大学に受け入れられた高校生は全国で 1376 人存在している<sup>15</sup>。

このように、日本の早期履修制度は大学の正規の授業を履修するという点で、米国の Dual Enrollment と似通っている。Dual Enrollment と同様に、個別の大学と高校の連携によって実施されることから、しばしば「高大連携」の取り組みとして行われる。

その実施形態は、私立大学とその付属高校のように、特定の大学と高校の間だけで行われる取り組みが一般的である。この場合、大学の授業を受けるタイミングが放課後か休日に限られるという制約の存在や、他大学に進学を希望する場合は取得した単位が認定されないという問題から、参加者は非常に少なくなる傾向にあることが指摘されている<sup>16</sup>。ただし、系列大学に進学が内定している高校生の入学前教育に活用される場合は、参加者が確保されやすいことが報告されている<sup>17</sup>。

また、県レベルで高校生に大学の授業を受ける機会を与えるための取り組みを展開している事例として、広島県が挙げられる。大学間連携組織がリーダーシップを発揮し、教育委員会や私学協会の協力を得て、高校生が県内の全大学から選択して授業を履修できる仕組みが構築されている。しかし、この場合も、比較的高校生側の負担が少ない単発のイベントなどには効果的であるが、15 回の出席が要求される正規科目の受講は、参加者数が伸び悩んでいるという状況がある。

特定の大学・高校の内部のみで展開される場合（1対1型高大連携）、より広く門戸が開かれている場合（広域型高大連携）のいずれにも共通する問題は、日本では大学の単位を早期に取得することが米国ほどは高校生にとってのインセンティブにならないことである。米国と比べ、遥かに大学の卒業が容易であり、入学試験においても大学の単位取得を評価してもらえる余地が少ない以上、多大な労力を費

やして大学の授業に参加することは割に合わないと判断されることも想像に難くない。

もちろん、入学試験において高校時代の学習をより深く評価する仕組みが整えられればいくらか流れが変わる可能性はあるものの、米国のように極めて一般的な学習形態となる可能性は非常に薄い。ゆえに、日本における早期履修制度の意義を考えた場合、「飛び級」的な発想で国内の大学進学を見据えていくよりも、米国を含めた海外の大学進学に向けた準備プログラムとして活用する方が理にかなっていると考えられ、そういう意味でも **Advanced Placement** の日本での展開は時宜を得た試みであると言える。

## 5. 考察

ここまで見てきた内容をもとに、日本と米国の早期履修制度の分類を行いたい。その枠組として、小川が東アジア諸国における「高大接続プログラム」を対象に、①海外—国内、②個別化—標準化の二軸を設定して図式化したものを援用する。なお、冒頭で述べた通り、ここでの「高大接続プログラム」は本稿における早期履修制度と同義である。①海外—国内については、当該プログラムが海外または国内のどちらの大学への進学を見据えたものであるかという軸であり、②個別化—標準化の軸は、そのプログラムによって取得できる単位が特定の大学に限定されるもの（個別化）か、広く通用するもの（標準化）かという分類となっている。

この分類を土台とし、日本から見た場合の早期履修制度の類型を、参考事例としての国際バカロレアも含めての図1に示した。Dual Enrollment についても、将来的に海外の大学と日本の高校が提携し、オンライン授業などの方法を用いて実施されていく可能性を考慮し、図に加えた。なお、小川が用いた②個別化—標準化の軸は、よりイメージが容易になるよう、Closed—Open に変更している。

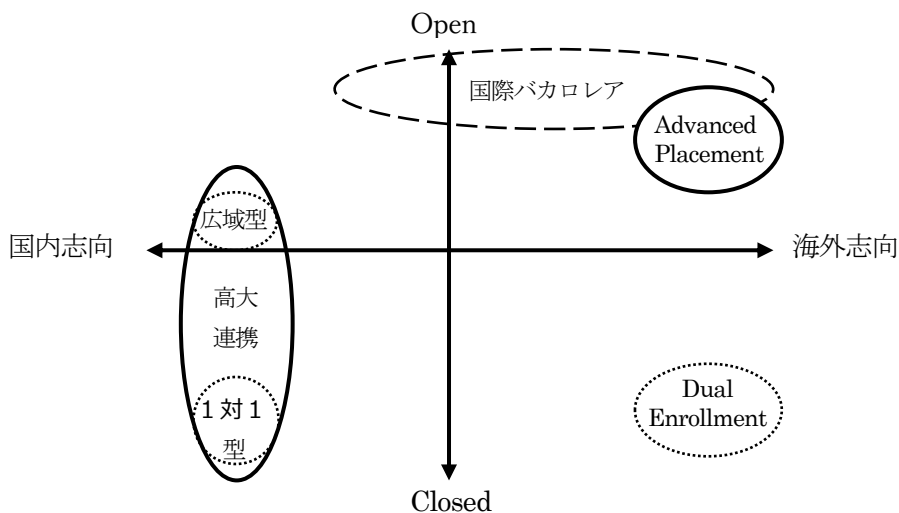


図1 日本から見た早期履修制度の類型

**Advanced Placement** や **Dual Enrollment** はその性質上、海外、特に北米の大学への進学に特化したプログラムである。世界的に受け入れられている国際バカロレアほどの汎用性の広さは備わっていないものの、北米の大学への進学を考える高校生には魅力的なプログラムとなり得るであろう。その一方

で、既存の高大連携による大学の単位取得とは全く別のものとして捉える必要があり、一見似た制度であっても同列にみなすことは危険であることが改めて確認できる。これから日本の制度や文化に適合した早期履修制度を設計する上でも、図のどこに位置づくプログラムであるかを明確化する必要があり、国内志向の場合は様々な障壁をいかに打破するかが重要な課題となる。

## 6. おわりに

高大接続の重要性が高まる中で注目を集めてきている早期履修制度であるが、その内実は多様である。本稿では、それぞれの形態や目的を区別した上で論じなければならないことを指摘したが、より精緻な分析を行うためには、日米さらに更に多くの事例にあたることが不可欠である。今後の研究の課題としたい。

### 【註】

- 1 時事通信 (2018年8月3日付)「高校改革検討スタート＝企業・大学との連携強化－教育再生会議」  
[<https://www.jiji.com/jc/article?k=2018080301209&g=soc>] (2018年8月30日閲覧)
- 2 時事通信 (2018年7月14日付)「50高校で大学単位『先取り』＝AI人材育成、新制度構想－文科省」  
[<https://www.jiji.com/jc/article?k=2018071400405&g=soc>] (2018年8月30日閲覧)
- 3 関西国際大学 (研究代表者：濱名篤)『平成25年度 先導的・大学改革推進委託事業調査研究報告書 米国におけるAP(アドバンストプレイスメント)の実施状況等に関する調査研究』2014年。
- 4 同上。
- 5 詳細は日本アドバンスト・プレイスメント推進協議会のウェブサイト (<https://apjapan.org/>) を参照のこと。
- 6 小川佳万「高大接続プログラムの類型」小川佳万(編)『東アジアの高大接続プログラム』広島大学高等教育研究開発センター、2012年、1-2頁。
- 7 College & Career READINESS& SUCCESS Center at American Institutes for Research..  
*Understanding Accelerated Learning Across Secondary and Postsecondary Education*. 2013.
- 8 The National Association for College Admission Counseling (NACAC), 2017, “State of College Admission report”.  
[<https://www.nacacnet.org/globalassets/documents/publications/research/soca17final.pdf>](Accessed 2018/08/30)
- 9 Jeffrey N. Wyatt, Brian F. Patterson, and F. Tony Di Giacomo. *A Comparison of the College Outcomes of AP® and Dual Enrollment Students*. College Board. 2013.
- 10 関内偉一郎「才能教育における高大接続に関する一考察－アメリカ合衆国の早修制度に焦点を当てて－」  
『教育学研究』第83巻4号、2016年、436-447頁。
- 11 岩永雅也「才能教育の現状と課題～教育再生実行会議有識者勉強会(2)資料～」、2016年。  
[<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/dai34/sankou2.pdf>] (2018年8月30日閲覧)
- 12 Concurrent Enrollment、Dual Creditなどの名称が用いられることも多い。
- 13 例えば、Dual Enrollment (州内での名称はConcurrent Enrollment) が盛んなユタ州では、州内の全ての州立高等教育機関と公立高校の連携による大規模なプログラムが実施されているが、私立大学であるブリガム・ヤング大学が個別に「Concurrent Enrollment Program」という名のプログラムを実施しているように、参加校が限定されるものもある。
- 14 AP試験の受験者は2,483,452人であるが、高校での授業は履修しながらAP試験は受験しないという生徒もいるため、プログラムへの参加人数としては更に多い数字になる。
- 15 文部科学省「平成27年度の大学における教育内容等の改善状況について」
- 16 西川潤「日本における効果的な単位認定型高大接続プログラムの実施形態に関する検討－米国のAPプログラムとDual Enrollmentを参考にして－」『未来教育研究所紀要』第5集、2017年、23-32頁。
- 17 関西国際大学、前掲報告書、92頁。

## Types of Accelerated Learnings for Articulation between High Schools and Colleges: Advanced Placement and Similar Systems

Jun NISHIKAWA

In Japan, there are moves to implement and disseminate Advanced Placement by the college board. The Japanese government is also beginning to consider creating similar programs and the system which high school students acquire college credits is drawing attention.

However, there are cases where the accelerated learning system, which is a general name for such systems, and Advanced Placement which is only one of its forms are being confused, causing inaccurate understanding. Considering this situation, this paper aims to clarify the relative features of Advanced Placement by grasping the types of accelerated learning system in the U.S. and Japan.

As a result, the existing accelerated learning system in Japan was able to be understood by two axes: ① "Open - Closed," ② "overseas oriented (studying abroad)- domestic oriented." Advanced Placement belongs to "Open - overseas oriented" and draws a clear line from the existing system that is domestic oriented. Through this analysis, it reconfirmed the importance of not looking at all of the accelerated learning systems as similar cases, but classifying and understanding them separately.